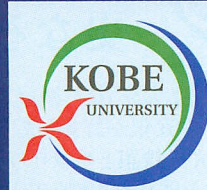


海神会だより

〒658-0022 神戸市東灘区深江南町5-1-1 神戸大学深江キャンパス内 海神会事務局

ホームページ<http://fukae.org/>のご案内:最新の情報が随時追加されています。ぜひご覧ください。

研究科長・学部長就任にあたって

小田 啓二



この度、石田廣史研究科長の副学長昇任に伴って大役を仰せつかりました。ここ深江の地での教育研究の伝統をこれまで通り守っていけるのか、不安のままスタートすることになりました。

私は1985年に、大阪大学産業科学研究所から原子動力学科放射線管理学講座(道嶋研究室)に赴任しました。この年、阪神タイガースが21年ぶりに優勝し、深江の町も夜遅くまで盛り上がりました。その後、原子力システム工学講座の一員として動力システム工学課程(BP)、商船システム学課程機関学コース(BE)を担当し、A16期、BE42期・BP4期、BE48期・BP10期を担当しました。また、橋本武先生ご退官の後、サッカー部の顧問を引き受けさせて頂きました。東京との定期戦など、沢山のサッカー部OBの方にもお世話になりました。

緒方一彦先生、西田修身先生と(週に3回?)深江で飲ませて頂いていた関係からか、2003年10月に西田先生が統合後の初代海事科学部部長に就任された時に、学部長補佐に指名され、これから管理運営の仕事をすることになりました。その後、井上欣三先生、また、評議員・副研究科長として、久保雅義先生、石田廣史先生の4代の学部長に仕え、研究、広報、予算など、主に総務関係を担当してまいりました。自分としてもそのような才があるとは思っておりませんし、補佐する立場をわきまえていたつもりでおりましたので、今回の状況の激変に戸惑っているというのが正直なところです。

統合して5年半になります。歴代学部長が主導され、何とか教育

研究が滞らずに進んでいます。この間、大学院は理学・工学・農学と海事科学からなる自然科学研究科に所属していましたが、2007年度から重点化された大学院として新たに海事科学研究科が発足しました。世界に類のないユニークな大学院として独立した訳ですが、それだけに厳しい評価を受けることになりますので、学内だけでなく学外・海外へもアピールしていく必要があります。

一方で、私たちの現在の教育研究組織、すなわち3学科/3講座体制に歪みがあることが指摘されています。これから激しく変化する環境に対応するためにも、適切な研究グループと教育システムを再構築する必要性を強く感じています。この他にも、入試倍率・偏差値のアップと就職先の確保、船舶職員養成教育に伴う諸問題への対応、次期中期計画の策定など検討しなければならない重要案件が山積みです。京都や大阪にはない、「海に開かれた総合大学」を主導する一員としての強い意志も必要だと思います。

勿論、私ひとりではリードできる訳はありません。現教授会メンバーの皆さんに加えて、同窓会の先輩諸兄のご協力無しではこの荒波を乗り越えることはできませんので、今後ともご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。



神戸大学理事・副学長就任にあたり 神戸大学理事・副学長 石田廣史

この度、平成21年4月をもちまして大学院海事科学研究科長・学部長を辞任し(任期は平成21年9月末まで)、神戸大学理事・副学長(入試・学生生活・広報担当)に就任致しました。理事・副学長就任のために海事科学研究科長・学部長を任期半ばで辞任することになり、海事科学研究科教職員並びに同窓会海神会の皆様には大変ご迷惑をおかけしました。この場をお借りして心からお詫び申し上げます。

平成15年10月の大学統合後、学部長補佐(教育担当)そして副研究科長(評議員)として、統合後の教育上の調整や新学部の自立、そして18年4月より発足しました大学院海事科学研究科設立の準備作業などに携わってきました。また、19年10月からは海事科学研究科長・学部長として大学院・学部の運営に全力を尽くしてきました。幸いにも、教職員一同と関係者の皆様のご理解とご支援を得て、海事科学研究科・学部の順調な旅立ちと新たな展開を成し遂げることが出来ました。同窓会海神会の皆様には、特に学生生活に多くのご支援を頂きました。

大学統合後の5年間は本当に慌しく過ぎました。私と致しまして

は、今後も継続して海事科学研究科の皆様と一緒に、海事科学研究科・学部の更なる発展に全力で貢献する積もりでした。これからはもっと地に足を付けた着実な教育研究活動が必要とされるでしょう。しかし幸いなことに、これまでの学部長並びに研究科長による協調、自立、発展への絶え間ない努力は、この5年間で着実に実を結びつつあります。そして、それらの業績を確実に継承し、着実に進めて行くのと同時に、小田海事科学研究科長・学部長を中心に教職員一同が一致団結し、将来への新たな発展に向けてより一層努力されると確信しています。

理事・副学長に就任致しましても、海事科学研究科・学部への全面的な支援と協力を惜しまない所存です。同窓会海神会の皆様におかれましても、是非、小田海事科学研究科長と海事科学研究科・学部へ、今までと相変わらないご支援とご鞭撻を賜りますよう、心からお願い申し上げます。



ご案内 平成21年度総会

日時:平成21年5月16日(土)16:00~17:00
場所:兵庫県民会館 11階 パルテホール
議題:平成20年度の収支決算、平成21年度の予算、評議員・理事・役員交代など

参加申込み先

総会および同窓会懇親会に出席される方は、5月8日までに下記宛先まで、FAXまたはメールにてご連絡頂きますようお願い致します。また、同窓会ホームページには会場の案内地図も掲載しています。

FAX:078(431)6439 E-MAIL:almamata@maritime.kobe-u.ac.jp

懇親会

日時:平成21年5月16日(土)17:30~19:00
場所:兵庫県民会館 11階 パルテホール
会費:¥5,000
■兵庫県民会館
住所:神戸市中央区下山手通4-16-3
電話:078-321-2131



更なる飛躍へ

会長 井上篤次郎

国立大学法人神戸大学となり、海事科学部同窓会「海神会」もはや五年が経過しました。

試行錯誤と手探りのなか皆様のご協力により今日にいたりましたことに心から感謝申し上げます。十年一昔と言いますがすでにその半分以上が過ぎたことになります。今年の卒業生も海事科学部としてすでに第二回の卒業生となりました。

海事科学部も昨春から大学院の研究と教育に重点をおく海事科学研究科が発足し、大学として充実がはかられ着々と発展していることは誠にご同慶の至りです。

この発展を更に確実なものとするために一昨年から大学ならびに(財)神戸大学海事科学振興財団では募金を行っています。よく似た内容の趣意書にみえますが募金の主体がこととなります。

いずれも深江における研究と教育の振興につかわれるものであり、多くの同窓のご援助をいただいておりますが、なお一層のご協力をたまわりますようお願いいたします。

石田廣史前学部長は四月から神戸大学副学長に就任され、後任には小田啓二教授が海事科学研究科長・学部長に選任され、新しい布陣でスタートしました。そして「海神会」もあたらしい体制に進もうとしています。

いま世界はかつてない激動の時代にありますが、荒波に揉まれそれに打ち勝つ船と海の教育と訓練が深江の「こころ」だと思います。

大学と同窓会の更なる飛躍を信じ、皆様のご健勝とご活躍を念じてご挨拶とします。

同窓会の活動



平成20年度理事会・総会報告

国立大学法人神戸大学となり、海事科学部同窓会「海神会」もはや五年が経過しました。

試行錯誤と手探りのなか皆様のご協力により今日にいたりましたことに心から感謝申し上げます。十年一昔と言いますがすでにその半分以上が過ぎたことになります。今年の卒業生も海事科学部としてすでに第二回の卒業生となりました。

海事科学部も昨春から大学院の研究と教育に重点をおく海事科学研究科が発足し、大学として充実がはかられ着々と発展していることは誠にご同慶の至りです。

この発展を更に確実なものとするために一昨年から大学ならびに(財)神戸大学海事科学振興財団では募金を行っています。よく似た内容の趣意書にみえますが募金の主体がこととなります。いずれも深江における研究と教育の振興に

第5回総会式次第

海神会(神戸大学海事科学部同窓会)

日時:2008年5月17日 16:00~17:30

場所:ホテルオークラ 平安の間

- ①議長選出
- ②議事録署名人の選出
- ③議案
 - 1)平成19年度事業報告
 - 2)平成19年度決算報告
 - 3)平成20年度事業計画、予算案について
 - 4)役員の改選について
- ④事務局報告および支部報告
- ⑤その他
- ⑥海事科学部研究科長の現況報告
- ⑦閉会の辞

平成19年度 海神会 収支決算書

(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

(単位:円)

収入の部

科 目	19年度予算額	19年度決算額	差 異	備 考
1.会費収入				
既卒業生	4,500,000	2,880,000	1,620,000	
新入生・在学生	4,800,000	5,975,000	△1,175,000	
2.雑収入				
受取利息	10,000	5,388	4,612	
寄附	10,000	20,000	△10,000	
当期収入合計	9,320,000	8,880,388	439,612	
前期繰越収支差額	26,068,669	26,068,669	0	
収入合計	35,388,669	34,949,057	439,612	

支出の部

科 目	19年度予算額	19年度決算額	差 異	備 考
1.事業費				
総会・評議会等経費	800,000	239,559	560,441	
会報発行費	450,000	446,901	3,099	
会報送料	800,000	734,140	65,860	
HP維持費	250,000	311,220	△61,220	
記念クラス会支援費	300,000	400,000	△100,000	23期生30周年分を先払い
学部支援費	1,250,000	858,518	391,482	
関係団体関連経費	210,000	165,840	44,160	神戸大学学友会など
支部支援費	700,000	700,000	0	
会員証作成	500,000	252,781	247,219	
小計(A)	5,260,000	4,108,959	1,151,041	

科 目	19年度予算額	19年度決算額	差 異	備 考
2.管理費				
人件費	1,050,000	396,000	654,000	
会議費	30,000	0	30,000	
旅費・交通費	250,000	62,540	187,460	
印刷費	100,000	0	100,000	
通信運搬費	50,000	14,541	35,459	
什器備品費	150,000	0	150,000	
消耗品費	70,000	70,484	△484	
光熱水費	60,000	0	60,000	事務室の光熱水費は賃借料に含む
賃借料	70,000	63,354	6,646	
雑費	60,000	83,640	△23,640	振込手数料等
小計(B)	1,890,000	690,559	1,199,441	
3.予備費(C)	500,000	0	500,000	
小計(A+B+C)	7,650,000	4,799,518	2,850,482	
4.特定預金積立金				
特別会計へ拠出	25,000,000	25,000,000	0	
小計(D)	25,000,000	25,000,000	0	
当期支出合計(E)	32,650,000	29,799,518	2,850,482	
次期繰越収支差額(F)	2,738,669	5,149,539	△2,410,870	

平成19年度 海神会 特別会計 収支決算書

(平成19年4月1日から平成20年3月31日まで)

(単位:円)

同窓会基金の部				
収入の部	科目	予算額	決算額	差異
	1.一般会計から受入	25,000,000	25,000,000	0
	2.雑収入			
	預金利息	10,000	36,099	△26,099
	合計(A)	25,010,000	25,036,099	△26,099

支出の部	科目	予算額	決算額	差異
	1.予備費	10,000	0	10,000
	合計(B)	10,000	0	10,000
	次期繰越収支差額(A-B)	25,000,000	25,036,099	△36,099

(註) 平成19年度から特別会計を設け、¥25,000,000は基金として特別会計に置くものであり固定的な性格の定期預金とする。

特別会計 資金総額 ¥29,747,282

学生自治・厚生関係の部				
収入の部	科目	予算額	決算額	差異
	1.海事科学部から受入	4,706,314	4,706,314	0
	2.雑収入			
	預金利息	500	4,869	△4,369
	合計(A)	4,706,814	4,711,183	△4,369

支出の部	科目	予算額	決算額	差異
	1.学生自治・厚生費	1,500,000	0	1,500,000
	2.予備費	200,000	0	200,000
	合計(B)	1,700,000	0	1,700,000
	次期繰越収支差額(A-B)	3,006,814	4,711,183	△1,704,369

(註) 旧神船大学生自治会の処分財産であり、海事科学部学生の自治と厚生関係に使用する。

平成20年度 海神会 収支予算書

(平成20年4月1日から平成21年3月31日)

(単位:円)

収入の部	科目	20年度予算額	19年度決算額	差異
	1.会費収入			
	既卒業生	3,000,000	4,500,000	△1,500,000
	新入生・在学生	4,800,000	4,800,000	0
	2.雑収入			
	受取利息	10,000	10,000	0
	寄附	10,000	10,000	0
	当期収入合計	7,820,000	9,320,000	△1,500,000
	前期繰越収支差額	5,149,539	26,068,669	△20,919,130
	収入合計	12,969,539	35,388,669	△22,419,130

支出の部	科目	20年度予算額	19年度決算額	差異
	1.事業費			
	総会・評議会等経費	800,000	800,000	0
	会報発行費	450,000	450,000	0
	会報送料	800,000	800,000	0
	HP維持費	250,000	250,000	0
	記念クラス会支援費	400,000	300,000	100,000
	学部支援費	1,250,000	1,250,000	0
	関係団体関連経費	210,000	210,000	0
	支部支援費	700,000	700,000	0
	会員証作成	250,000	500,000	△250,000
	小計(A)	5,110,000	5,260,000	△150,000

支出の部	科目	20年度予算額	19年度決算額	差異
	2.管理費			
	人件費	1,050,000	1,050,000	0
	会議費	30,000	30,000	0
	旅費・交通費	250,000	250,000	0
	印刷費	100,000	100,000	0
	通信運搬費	50,000	50,000	0
	什器備品費	150,000	150,000	0
	消耗品費	130,000	70,000	60,000
	賃借料・光熱水費	70,000	130,000	△60,000
	雑費	100,000	60,000	40,000
	小計(B)	1,930,000	1,890,000	40,000
	3.予備費(C)	2,929,539	500,000	2,429,539
	小計(A+B+C)	9,969,539	7,650,000	2,319,539
	4.特定預金積立金			
	特別会計へ拠出	3,000,000	25,000,000	△22,000,000
	小計(D)	3,000,000	25,000,000	△22,000,000
	当期支出合計(E)	12,969,539	32,650,000	△19,680,461
	次期繰越収支差額(F)	0	2,738,669	△2,738,669

平成20年度 海神会 特別会計 収支予算書

(平成20年4月1日から平成21年3月31日まで)

(単位:円)

同窓会基金の部				
収入の部	科目	20年度予算額	19年度決算額	差異
	1.一般会計から受入	300,000	25,000,000	△22,000,000
	2.雑収入			
	預金利息	30,000	10,000	20,000
	小計	3,030,000	25,010,000	△21,980,000
	前年度繰越収支差額	25,036,099	0	25,036,099
	合計(A)	28,066,099	25,010,000	3,056,099

支出の部	科目	20年度予算額	19年度決算額	差異
	1.予備費	10,000	10,000	0
	合計(B)	10,000	10,000	0
	次期繰越収支差額(A-B)	28,056,099	25,000,000	3,056,099

(註) 平成19年度から特別会計を設け、平成20年度も¥3,000,000を基金として特別会計に移すものである。

学生自治・厚生関係の部				
収入の部	科目	20年度予算額	19年度決算額	差異
	1.海事科学部から受入	0	4,706,314	△4,706,314
	2.雑収入			
	預金利息	5,000	500	4,500
	小計	5,000	4,706,814	△4,701,814
	前年度繰越収支差額	4,711,183	0	4,711,183
	合計(A)	4,716,183	4,706,814	9,369

支出の部	科目	20年度予算額	19年度決算額	差異
	1.学生自治・厚生費	1,500,000	1,500,000	0
	2.予備費	200,000	200,000	0
	合計(B)	1,700,000	1,700,000	0
	次期繰越収支差額(A-B)	3,016,183	3,006,814	9,369

(註) 旧神船大学生自治会の処分財産であり、海事科学部学生の自治と厚生関係に使用する。



関東支部

支部長 馬淵祐二

関東支部の地域は、東京、神奈川、埼玉、千葉、茨城、栃木、群馬、山梨、在住の会員ですが、近隣県在住で希望される会員にも参加して頂いています。

会員数は、発足当初の名簿上では1310名でしたが、逝去、辞退、転出、連絡不能、の会員を減じ、転入、域内在住判明の会員を加えました結果、1133名となっています。このうち、255名の会員からはe-mail addressを連絡して頂いており事務局との緊密な連絡手段として有効に活用しています。

支部総会(懇親会付)を年一回行っており、本年度は支部設立から3回目の総会を'08年6月16日に開催しました。(出席者33名)本部開催の主要行事(総会、評議会等)には支部長と理事2~3名が出席し、その内容、状況等を後日支部会員へ報告、説明しています。前回の支部総会に於いて、出席者から神戸大学、同海事科学部、神戸大学海事振興財団による募金活動について質問と意見が多く出されましたので支部長から可能な範囲で説明をし、支部の「事務局通翰」(支部事務局から支部会員への弘報紙)により各会

員へ説明報告を致しました。

学友会(神戸大学各学部同窓会集合体)東京支部の構成員として2名の役員を出し、一体となって活動しています。同支部での各種行事のうち、講演会(懇親会付)を「木曜会」として年8回開催しており'08年10月30日(木)は海事科学部の担当で、日本船長協会々長森本靖之氏(N7)に「海と船旅(世界一周うら話)」と題して講演して頂きました。来年度は10年2月の予定です。学友会の行事は学術から趣味、スポーツに至る広範囲にわたっており、参加は、他学部出身者との交流になり、大いに勤めたいと思います。

同窓会としての海神会の活動の主力は“大先輩”世代が多いように思うのですが、設立期から発展期へと現役世代主力へ移行することが肝要と思います。

事務局からのお願いです。会員移動が判っているのはほんの一部です。転勤等で移動された場合には事務局宛一報下さいますようお願いいたします。



海神会関西支部だより

海神会の母体になった白鷗会の伝統行事である恒例の第26回白鷗杯争奪ゴルフ大会が、去る20年9月25日(木)に、垂水ゴルフクラブで開催されました。

好天に恵まれ、海神会関西支部メンバーの有志、37名の参加のもと、白熱のコンペが展開され、ダブルペリア方式で順位が決定されました。

そして、日ごろの実力を発揮された徳井博さん(8N)が優勝されました。

以下、準優勝 田中宏樹さん(6N)、以下3位・羽田紀雄さん、4位・西原興一郎さん(10E)、5位・三木牧夫さん(8E)、6位・村田禎三さん(4E)、7位・高尾吉宗さん(12E)、8位・荒木弘さん(12E)、9位・小林英雄さん(8E)、10位・田中克美さん(9E)のみなさんでした。

また、実力者(ベスグロ)は高尾吉宗さん(12E)、アウトは36、イン39、グロス75の高スコアで上げられました。

プレー終了後、引き続き表彰式、懇親会が開催され、ドラコン賞、ニアピン賞の他に、開催担当者の心優しいご配慮により、全員に賞

品が用意されていて、全員が喜びを顔いっぱい、プレーを存分に楽しんだ一日を終えました。

今後もこのコンペを盛大に維持して行きたく、大勢の参加をお待ちしております。



第26回 白鷗杯ゴルフコンペ

2008. 9. 25



平成20年度評議会の報告

20年9月27日の午後、第3回神戸大学ホームカミングデイのイベントに合わせ、海神会の評議会(構成員:理事ならびに評議員)が総合

学術交流棟1階(コンファレンスルーム)で開催され、海神会の活動の報告に合わせ、大学・海事科学部の近況の報告がありました。

記念講演では、海神会メン

バーである藤田恒美氏[1981年卒・26E (株)グローバルオーシャンデベロップメント]による地球探索船「ちきゅう」の活動についての壮大な活動が報告されました。

引き続き、総合学術交流棟1階ロビーで懇親会が開催され、多数の海神会メンバーが深江キャンパスでの懇談を楽しみました。



記念クラス会

class・reunion

神戸商船大学3期生「卒業50周年記念合同クラス会」(1958年卒業)



昭和33年に深江を巣立った3期航海科及び機関科卒業生の合同クラス会を平成20年5月30日(金)12時より神戸のホテル オークラにて開催しました。東は関東、西は九州から期待以上の集りで、3名のご夫人を含めて52名の参加を見ました。すでに判明しているだけでも残念ながら31名の級友が鬼籍に入っているだけで、55%の出席率といったところですよ。

すでに、殆どの仲間は第一線から退いていましたが、まだ仕事を続けている者達も居り、思ったよりも年の割に若々しい顔付きが多かったもので、この調子でいくと60周年のクラス会も十分可能性があるなと思った次第です。卒業以来初めての50年ぶりの顔合わせという者達もいて、会の始めの内はそれほど活発な話しぶりではなかったものの、宴が進むに連れて会話が熱がこもってきて半世紀前の青春時代をついこの間のように語り合ってい

ました。10年後に60周年記念のクラス会を行おうという発案に皆が賛成したことは意気の軒昂さを示すものとして特筆すべきものと思われまふ。

一方、時間の経過は早く予定の3時間は瞬く間に終りに近づき、最後に輪になって肩を組み寮歌を斉唱してお開きにしました。ささやかなお土産として配りましたコンパスマークの校章入りの「瓦せんべい」は好評だったと聞いています。

解散後ホテルに宿泊の8名を除いて、皆はまだ日の高い週末の神戸の街に消えて行きましたが、その日に家に帰らなかった豪の者もいたようで、心意気と体力の差があまり開いていない者達の将来?を思いやったりしています。

最後に、クラス会の資金援助となりました「お祝い金」を賜りましたことを海神会に厚く御礼申し上げます。有難うございました。

(松本充弘)



神戸商船大学13期生「卒業40周年記念合同クラス会」(1968年卒業)

東京オリンピックの年(昭和39年)に入学した我々13期生は平成20年に卒業40周年を迎えました。この節目の時に13期ということにベースにして、記念クラス会を平成20年10月18、19日に有馬温泉の「かんぽの宿 有馬」で開催しました。

その陣容は航海学科20名、機関学科17名、クラス担任だった松木先生(N)、古川先生(E)の総勢39名の陣立てです。

10月18日(土)は秋晴れの良い天気にも恵まれました。集合場所の大学構内には身についた習性とも言ふべきか定刻前の2時頃には三々五々集まって来ました。頭の方は白くなったり、薄くなったりしていますが往年の風貌、雰囲気は確保していますので、すぐに判別し「おうおう久しぶり、元気そうだなー」と話の輪が出来ました。

大学のご厚意で開放していただいた海事博物館を見学、卒業30周年のクラス会の折に記念植樹した百日紅の成長を愛でるなど、それぞれの場所で、それぞれに集まって語らい、何十年ぶりの大学構内を楽しみました。

3時半過ぎには古川先生、松木先生を迎え、博物館前と記念植樹前で集合写真を撮影し、用意した観光バスにて芦有道路を経



由して本日の主会場「かんぽの宿」に向かいました。

一風呂浴びて、浴衣姿で宴会に出陣、記念の集合写真を撮影後、両先生のご挨拶!訓示?をいただき、乾杯の声で宴会が始まりました。おいしい料理に又お酒に喉を潤しながら各自のショートスピーチへと突入し、それぞれの勇姿を披露しながらの軽妙なトークに座は大いに盛り上がりました。飲み放題で打ち上げと思いきや、差入れの銘酒「越乃寒梅」の回し飲みあり、お酒の追加オーダーありで時間を延長してギリギリまで歓談を続けました。

部屋に戻ってからも、敷いてもらった布団を丸めて車座になって話し込み、話題は尽きませんでした。「終了時刻、幹事不知」翌朝(19日)も良い天気にも恵まれました。温泉に入って酔いを醒まし、ゴルフ組は近くのゴルフ場でゴルフコンペ、その他の者はまだまだ飽きずに話し込んだり、有馬の秋を楽しんだりとゆっくり過ごし、午前9時過ぎには「コンパスマークのロゴ入り特製瓦煎餅」のおみやげと楽しい思い出をそれぞれのカバンに詰めて、それぞれの地へと戻っていきまふ。

当日の宴会の模様、各自の挨拶のスナップ写真などは入学時の集合写真、当日の大学や宴会場での集合写真と共に、一冊のアルバムに編集して、後日各人に送付しました。なかなか良く出来たアルバムになりましたので喜んでもらえたのではないかと思います。

文責:(13E)井上晴彦



第30回神戸港カッターレースに出場して



第30回神戸港カッターレース女子決勝

平成20年5月11日、メリケンパークで開催された第30回神戸港カッターレースにチーム名「商船ギャルズ」で出場しました。女子の部は12レース展開され、300mの直線を6mカッターにより競いました。神戸大学女子端艇部は慢性的な部員不足に陥っており今大会への出場が危ぶまれましたが、幾多の優勝を誇ってきた当チームであることから、その名誉のためにも奮闘すべきと考え、現役部員と有志の混成で大会に臨みました。レースは予選から順調

に勝ち残り、決勝では1分56秒81の大会記録を残して優勝することができました。なお、商船ギャルズは過去30回中、優勝10回の2連勝です。女子学生の他、男子端艇部の皆さん、OB・OGの方々の絶大なるご協力とご声援でこのような結果を残すことができましたことは心底光栄であり、カッターを通じて育まれるチームワークと結束力の大切さを改めて実感するとともにさらなる友情が芽生えました。



商船ギャルズ優勝

外洋帆走同好会 フランス世界選手権 遠征報告(Student Yachting World Cup 2008)

引率教員 海事科学研究科准教授 山下和雄

深江の地に誕生して間もないクルーザーヨットのクラブである外洋帆走同好会が、昨年神奈川県葉山町での全日本学生外洋帆走選手権に初参加し、今年、2回目の挑戦で世界大会の参加資格を得ました。10/25～10/30の日程で、フランスの西部のリゾート地ラトリニエで行われた世界大会に遠征してきました。遠征メンバーは海事4年生3名、海事2年生2名、経済2年生1名、海事1年生2名(女子)の8名です。レース結果は、1位アイルランド、2位イタリア、3位スイス、4位ポルトガル、5位USA、6位フランスA、7位イングランド、8位ノルウェー、9位スコットランド、10位フランスB、11位日本(8位、10位、10位、11位、8位、11位、11位、8位、11位、9位、11位、4位、4位、9位、10位)でした。参加11カ国中の最下位でしたが、経験の少ない若いチームがフランスの冬の荒天強風の中、普段の練習艇より大きな艇を操船し、無事故で大会を終えたことは善戦したというのか顧問としての印象です。強風では体格差からどうしても艇速差が出てしまうものですが、レース後半からは艇に慣れ、上位を走るようになりました。1日3レースと肉体的にも精神的にもタフなレースで、ナイトレースもあり世界選手権にふさわしい過酷なレースでした。また、艇長会議、連日のパーティー、抗議への証人艇諮問など英語でのコミュニケーション体験は毎日のことであり、学生は頭と体をフル回転させる体験になったように思います。



「もう一度戻ってきたい」がフランスを立つ時の学生たちの感想です。日本の学生たちが練習環境に恵まれ経済的な支援も多い外国チームに、

最後まで正々堂々と戦いを挑んだ姿は感動的でした。学生たちにとっても世界中の若者と交流ができた体験は今後の学生生活に意味のある貴重な青春の1ページになったことは間違いありません。



大会概要

大会名 学生外洋帆走世界選手権

STUDENT YACHTING WORLD CUP 2008

大会日程 平成20年10月24日～31日

URL: <http://www.sywoc.org>

ホームページ上のphoto&videoのページには2008の写真や動画が掲載されています。

出場校・チーム

- 1 フランス - IUT de Vannes - Groupe Atlantic
- 2 スイス - Ecole Polytechnique Fédérale de Lausanne
- 3 スコットランド - Aberdeen University Sailing Club
- 4 アイルランド - Cork Institute of Technology
- 5 イタリア - Centro Universitario Sportivo Milano
- 6 日本 - Kobe University
- 7 ノルウェー - Norges Teknisk-Naturvitenskapelige Universitet Norway
- 8 ポルトガル - UTL - universidade tecnica de Lisboa
- 9 アメリカ - U.S. Naval Academy Sailing Team
- 10 フランス - X-Course Au Large, Ecole Polytechnique
- 11 イングランド - Great Britain Solent University

開催地: フランス

(La Trinité-sur-mer, Morbihan France)

レース海面: the bay of Quiberon

主催校: Ecole Polytechnique

レース艇: Grand Surprise(31ft)

乗員: 8名(女子2名含む)以下
(総クルーウエイト530kg以下)



ヨット部



われわれ神戸大学ヨット部は9月20日から23日に行われた全国につながる関西学生インカレにおいて、スナイプ級で4年生のスナイプリーダーの砂田武志を筆頭に関西で4位に入り8年ぶりの全国大会出場を果たした。

そして10月30日から11月3日に行われた全国大会。目標は全国で10位以内。

初日、北風の微風。5月からスナイプに転向した土井がここきて実力が開花したのか土井、卯野組が4位でフィニッシュ。幸先の良いスタートに思われたが、第一レースでいきなり中野、加藤組がDSQを取り初日は下位からのスタートとなった。

二日目、南の風。この日も第一レースで砂田、青木組が英語を取ってしまいが、その後3艇後ろを走ることなく順位を上げる。

三日目が終わり、順位は10位。しかし、10位前後はものすごく混戦状態で、最終日しだいでの順位のジャンプアップもできる。

全日本大会参加の記録

気合を入れて望んだ最終日、微風の北風。気合がからまわりしたのか、3艇中2艇がスタートに失敗し、同志社に抜かれ最終順位は24校中11位となった。

この結果は関西では予選で負けた大阪、関学を抜いて2位であり、国公立では鹿屋体育大に次ぐ2位。決して誇れる順位ではないが残念がる順位でもないだろう。しかし、個々の順位を見てみると土井、卯野組の活躍のおかげである。でも、全国は全く自分たちの力が通用しないところではなく、十分に戦えるチャンスがある舞台だとわかった。今年は両クラス出場、そして全国入賞を目標とし、それを達成すべく努力していきたい。



海事科学部での日々

海事技術マネジメント学課程航海群 卒業生 長谷川 智子

卒業生の長谷川智子と申します。私は富山商船高等専門学校を卒業後、神戸大学海事科学部の3年生に編入学しました。2年間という限られた大学生活では、授業についていけるのか、友達の輪にうまく入っていけるのか……等々、石川県から単身出てきた私には当初不安なことばかりでした。諸先輩や先生からは「自分次第」と言われていただけに、なおさら緊張がつきまといました。しかし実際に入学してみると、とてもユニークで頼りになる同級生や先生方に恵まれ、とても充実した2年間でした。早いもので、あれからもう2年が過ぎてしまいました。深江丸船長研究室で特別研究の日々を送りましたが、この研究室では深江丸による各種の運航を通じて、小中学生から高校生、一般の方々や諸先輩、さらには外国からお見えの方々と交流する機会が多く、高専時代には考えも及ばなかった様々な経験をしながら、めまぐるしく、とても楽しい毎日を過ごしました。クラスメイトは1月から帆船による船舶実習に進み、編入学の私は3月末までこの研究室に残りました。1月下旬からの深江丸定期検査入渠工事では船体と機関整備のノウハウをしっかりと身につけました。4月から株式会社商船三井に航海士として入社しており、仲間よりひと足早くプロを目指しています。お世話になりました2つの母校

の名に恥じないよう、これからも頑張ります。よろしくお願いします。



第9回 国際海事大学連合学生交流プログラム (IAMU AGA9 Students' Program)に参加して

海事技術マネジメント課程航海コース 4年 森重 萌木子

私は2008年10月19日～22日までIAMUSプログラムに参加するためカリフォルニア海事大学(CMA)に張 璠学生(海上輸送科学コース4年)と宮崎 悠人学生(機関学コース4年)の3名で参加しました。私たちは、出発前に国際海事教育研究センターの先生から英語によるインタビューを受けて参加資格をえました。

プログラムへの参加者が所属する大学は、アメリカ・マサチューセッツ海事大学4名、California Maritime Academy多数、ポーランド・Gdynia Maritime University 1名、フィンランド・Satakunta

University 1名、ウクライナ・Odesa National Maritime Academy2名、上海海事大学2名、東京海洋大学2名、神戸大学3名でした。期間中のプログラムは自国での研究内容のプレゼンテーション、教育研究プログラムや航海実習の紹介、CMAが最近設置した操船・機関・油流出シミュレーターを使用した実習・実験、サンフランシスコでの市内観光、CMA練習船ゴールデンベアー(Golden Bear)船上パーティー等と3泊4日にしては大変充実したものでした。写真は深江の三人と上海海事大学、東京海洋大の学生達と学生会館の前で撮ったものです。

このプログラムを終えて、私にとって国際的な海事社会の無限の可能性を感じる事ができたように思います。様々な国から来た、私達と同じ分野に興味を抱き、同じ方向を向いている同年代の学生達と、それぞれの将来の事やこれからの海事社会について今感じている事を直接情報交換できた事は非常に良い経験になりました。参加学生の感じている事については、素晴らしい点、感心できる点、尊敬できる点が非常に多くあり、大変勉強になりました。これからの海事社会が発展していく上で、このように国の異なる人達が、それぞれの意見を主張し、情報を交換し、互いに尊敬し合う機会を設ける事はとても大切なのだと率直に感じました。

また、このプログラム期間中に多くの外国の友人ができた事、英語でプレゼンの発表を行った事も本当に良い経験になりました。

これから4回生になり本格的に卒業研究が始まりますが、今回の経験を十分に活かして頑張っていきたいと思っています。





海事博物館の紹介と卒業生の支援活動

1967年(昭和42年)に開設された神戸商船大学海事資料館が2004年(平成16年)10月の大学統合を契機に海事博物館に衣替えし、以来4年あまりを経過しましたが、近年その活動の幅と厚みが広がっています。活動を支えている中には日本学術振興会、文化庁、日本財団からの研究費、支援基金をはじめ、国内外からのご厚志があります。

2007年開催の特別企画展「引き札展」、第1回市民セミナー「高田屋嘉兵衛北前船」に続き、2008年には「海の日」特別企画展「近代日本商船隊の全容」が7月18日から10月3日まで、第2回市民セミナー「神戸と近代日本商船隊」が11月1日から12月20日までに5回の講座と一段と充実した内容で開催され、多数の一般市民の来訪がありました。

この成長を支える裏方役として、海神会会員の中から博物館ボランティアが、イベントの企画から実際の行事の運営まで、その核となつて

支援を続けています。

博物館ボランティアの発足のきっかけは1995年に阪神大震災で大被害を受けた海事資料館の収蔵品の修復、整理とデータベース化、このたいへんな作業を同窓会の有志が2002年から開始、その際のメンバーの大部分が引き続き現在も博物館内の案内、イベントの企画と実施に参加して活躍しています。

大学内に設けられ市民に開放されている博物館をボランティア運営員として、今後も模索を重ねながら、小中学生を含め、大勢の方々から愛される活動を続けて行きたいと思っています。

海事博物館の詳細やイベントの案内は、そのホームページ <http://www.museum.maritime.kobe-u.ac.jp/> をご参照下さい。



ボランティア活動「キャンパスを綺麗にする会」

私達ボランティア8名(OB3名、一般社会人4名と大学旧職員1名)は平成21年度4月より、石田海事博物館館長と浜田事務長の肝煎りで、海事科学部のキャンパスを綺麗にするボランティア「かもめ会」を立ち上げました。これまで平成19年より、大学内外の道路の清掃、構内の植木の手入れ、施肥、殺虫剤の散布などを、それぞれの時期を捉えて日曜ボランティア仲間が集まって試行して来ましたが、その成果か、年々キャンパスの景観を多少良くして来ていると自負しております。勿論、卒業式、深江祭、ホームカミングデー等のビッグイベントの際は、教職員と学生達による応急の草刈作業、また専門業者による本格的な剪定作業によるところが大きいことは当然で、今更申すまでもありません。しかしながら、それでも未だ表通りだけで裏側にまでは及んでいません。大学の運営管理費の文科省予算が毎年1%削減されており、今後益々厳しくなるものと伺っております。其のような事情と大いに関係が



あって植栽管理には十分に行き届いていないのではと危惧しています。ご承知の方も多いと思いますが、キャンパスには平先生のご縁で奄美大島から寄贈された蘇鉄、旧神戸高等商船卒業生の方々の記念植樹ハナミズキ、先生がたの定年退官記念植樹、同窓生の卒

業〇〇周年記念植樹等がありますが、これらをもう少し感心を持って、大切に守り、大事に管理する必要があります。又、植栽と道路や建築物との配置関係、土壌と樹種との関係にも、もう少し配慮と工夫があつてしかるべきだと思います。例えば東大には銀杏並木、北大はポプラ並木、江田島の海軍兵学校は黒松と芝生のキャンパス、といった具合に、旧神戸商船大学シンボルであるチエリーマークに因んで桜並木、あるいは寮歌に歌われている梅林といった具合に考えて育てていくのも一案ではないかと思っています。これまであまりにも色々な植物が植えられて、伸びるまま放置され、樹形が崩れておるところが散見されます。私達ボランティアは微力ながら、大学と協力してこれらのことに留意し、海事学府に相応しい環境を整えられたら素晴らしいのではと考えています。望みは高くとも、足を確りと地につけて、魂より始めよとの故事に則って、身近なことからでも着実にスタートしてゆきたいと思いますので、学内外の方々のご協力をお願い致します。どうか卒業生の皆さん方でボランティア活動に感心がある方は下記のOBまでご連絡下さい。



I-E 三浦 敏夫

平成21年4月15日

I-E 三浦 敏夫：電話(fax)0797-23-4484、8-N 上山 肇：電話078-947-0977、8-E 津島 孝雄：電話078-652-0262



2008年学内の主な行事

4月 8日 入学式：ワールド記念ホール、深江	12月 15日 耐寒行事：六甲登山
新入生オリエンテーション：深江	12月 25日 冬季休業（～1月7日）
4月 10日 前期授業開始	1月 1日 船舶実習3(4年)（～3月31日）
5月 15日 神戸大学創立記念日	1月 17日 大学入試センター試験（～1月18日）
5月 17日 海神会理事会・総会・懇親会	2月 13日 授業終了
5月 24日 深江祭（～5月25日）	2月 16日 後期定期試験（～2月20日）
8月 1日 前期授業終了	2月 4日 船舶実習1(1年2班)（～3月26日）
8月 4日 前期定期試験（～8月8日）	2月 25日 前期日程入学試験
8月 22日 船舶実習1(1年1班)（～9月21日）	3月 12日 後期日程入学試験
9月 24日 乗船実習科 修了式：深江	3月 25日 学位授与式：ワールド記念ホール
9月 27日 ホームカミングデー	3月 27日 春季休業（～4月5日）
10月 1日 後期授業開始	
10月 1日 船舶実習2(2年)（～10月31日）	
11月 5日 船舶実習2(3年)（～12月5日）	
12月 6日 ドミッションオフィス(AO)入試（～12月7日）	



2009年学内の主な行事

4月 7日 入学式：ワールド記念ホール、深江	12月 5日 ドミッションオフィス(AO)入試（～12月6日）
新入生オリエンテーション：深江	12月 11日 耐寒行事：六甲登山
4月 9日 前期授業開始	12月 25日 冬季休業（～1月7日）
5月 15日 神戸大学創立記念日	1月 1日 船舶実習3(4年)（～3月31日）
5月 16日 海神会理事会・総会・懇親会	1月 16日 大学入試センター試験（～1月17日）
5月 23日 深江祭（～5月24日）	2月 4日 後期定期試験（～2月10日）
7月 30日 前期定期試験（～8月5日）	2月 12日 授業終了
7月 22日 船舶実習1(1年1班)（～9月21日）	2月 24日 船舶実習1(1年2班)（～3月26日）
8月 8日 夏季休業（～9月30日）	2月 25日 前期日程入学試験
9月 25日 乗船実習科 修了式：深江	3月 12日 後期日程入学試験
10月 1日 後期授業開始	3月 25日 学位授与式：ワールド記念ホール
10月 1日 船舶実習2(2年)（～10月31日）	3月 27日 春季休業（～4月5日）
10月 31日 ホームカミングデー・海神会評議会	
11月 5日 船舶実習2(3年)（～12月5日）	

事務局からのお願い

事務局は深江キャンパス1号館（正門から海に向かって正面の白い建物）3階建ての2階に「(財)神戸大学海事科学振興財団」と同室で業務を行っております。総合運営部会、「海神会だより」の編集、会合、総会などの準備は、ここで行われます。

会員の皆さん、深江に来られましたら、ぜひ事務局のドアをノックして下さい。ただし、事務局は原則として毎週月・木曜日のみオープンになっておりますので、できればなるべく早めにメール

almamata@maritime.kobe-u.ac.jp宛にご連絡頂ければ事務局担当者が在席できるように調整させて頂き、確認の返信をお送りいたします。

また高等商船時代を含め、在学中、航海実習中の教科書や教材、写真等のほか記念品がありましたら、事務局を通じて沿革コーナーならびに海事博物館で整理し貴重な資料として長く保存いたしますので、ご一報ください。